

IX-1 久世町立遷喬小学校における総合的な学習の授業と評価の工夫

(1) 本校の概要

① 学校所在地等

- ・学校の所在地

岡山県真庭郡久世町久世 100

- ・学年別学級数及び児童数（平成16年2月現在）

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特殊学級	合 計
学級数	3	3	2	3	2	3	1	17
児童数	101	86	75	82	72	86	3	505

- ・教職員数（平成16年2月現在）

	校長	教頭	教諭	講師	養護 教諭	事務 職員	司書	栄養 士	調理 職員	校務 員	合計
人数	1	1	22	2	1	1	1	1	8	1	39

② 学校の沿革

創立は明治7年。校名「遷喬」は、中国の詩経伐木の詩の一節「出自幽谷遷于喬木」（幽谷より出でて喬木に遷る）から備中聖人山田方谷が名付けた。鳥が谷間から飛び立ち大きな木に移るように、学問に励もうという先人の熱い期待が込められている。

校舎は明治40年建築のルネッサンス風の旧校舎の老朽化に伴い、平成2年当時としては西日本初の本格的なオープンスクールとして改築移転され、現在に至っている。

本校では、総合的な学習の時間を「生き方学習の時間」ととらえ、この時間において一定の知識を覚え込むのではなく、自分を取り巻く実生活の様々な課題を直接体験したり、自分との関わりの中で問題解決に取り組みことで、問題は他人事ではなく、自分の問題として判断し解決に取り組むことが大切であると考えている。そして、「子どもの自己決定の保障」「教師の支援」「教師の指導性・計画性」「活動と内容の区別」の4つを総合学習を実践するための大切な柱として実践に取り組んでいる。

(2) 総合的な学習への取り組み

① 最近の研究動向

1997年度に、総合学習のハンドブックを作成し、総合学習の具体的な進め方をまとめたり、総合学習における校内役割分担などを明確にした。2000年度改訂。

2000年度には、総合学習の目標「生活科で培われた自立への基礎を基盤として地域で出会う身近で切実な問題を自分との関わりの中で解決することを通して、主体的な学び方や問題解決の能力を身に付け、自己の生き方を考えることができる」を作成した。また今まで実践してきた活動の内容を整理し、7つのスコープ（内容領域）とそれぞれの目標を設定した。

2001年度には、スコープ毎に内容項目を設定し、中・高学年の発達段階に応じたより具体的な内容項目を設定することで内容系列表を作成した。これは総合学習において子どもたちをどう育てていくのかについての本校の目標・内容であるとともに、単元を作る際の大切な指針となっている。

2002年度には、国立教育政策研究所の「総合的な学習の時間の授業と評価に関する開発研究」の研究協力校として、総合的な学習の時間の評価について研究を行った。

① 「内容系列表」の作成

・その作成の必要

周知の通り学習指導要領には、教科では目標や内容は記されているが、総合的な学習の時間では創設の主旨やねらいが第1章総則に記されているだけで、目標や内容は何も記されていない。唯一示されている課題はあくまで例示であって、このため、学校独自でどんな教育内容を押さえるのか、学年に応じた教育内容とはどんなものかということについて作っていかなければならない。それを示したのが「内容系列表」である。スコープ（内容領域）だけを決めている学校もあるが、それだけでは不十分である。スコープが示す内容が不明確だったり、具体性に欠けたりするため、学校として系統立った指導ができないことになる。やはり内容項目まで必要である。

・その特質

「内容系列表」とは我が校の学習指導要領である。総合的な学習のねらいである「自己の生き方を考えることができるようにする」ために必要なスコープを示し、そのスコープでの目標やそれぞれを構成している内容項目を、中学年・高学年の発達段階に応じて具体的に書き分けている。

総合的な学習の時間の内容系列表 No.1 久世町立遷番小学校

	目 標	内 容	3・4年	5・6年
国際	自国の歴史や文化について理解と愛着をもち、異文化を理解・尊重し、国際社会の一員として共生に生きる資質や能力を育てる。	<p>ア 日本の歴史や文化などについて理解するとともに、愛着をもつ。</p> <p>イ 世界の様々な国の歴史や文化などについて理解するとともに、それぞれのよさを尊重する。</p> <p>ウ 国際社会の一員として、共生していくこととする。</p> <p>エ 外国語によるコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>ア 日本の歴史や文化などに進んで親しみ、よさに気付く。</p> <p>イ 世界の様々な国の歴史や文化などに進んで親しみ、それぞれのよさに気付く。</p> <p>ウ 世界の様々な国の人々と交流し、だれとでも仲良く助け合おうとする。</p> <p>エ 外国語に興味・関心を持ち、歌や言葉に親しむ。</p>	<p>ア 日本の歴史や文化などについて理解を深め、大切にしようとする。</p> <p>イ 世界の様々な国の歴史や文化などについて理解を深めそれぞれのよさを尊重する。</p> <p>ウ 世界の様々な国の人々と積極的に交流し、地球市民として共に生きていくこととする。</p> <p>エ 外国語による簡単な日常会話に慣れ親しむ。</p>
情報	多くの情報の中から自分に必要な情報を収集・選択し、活用することができる。積極的に責任ある発信ができる資質や能力を育てる。	<p>ア 多くの情報の中から、自分の目的に応じて適切な情報を選択して、収集することができる。</p> <p>イ 収集・選択した情報を、自分の生活に活用することができる。</p> <p>ウ 受け手の願い・状況等を踏まえ、主体的に責任ある情報の発信ができる。</p>	<p>ア 課題意識をもって、自分に必要な情報を選択して、収集することができる。</p> <p>イ 収集・選択した情報を、自分の生活に生かそうとする。</p> <p>ウ 相手の気持ちを考え、積極的に情報の発信ができる。</p>	<p>ア 多様な情報源を用いて、多くの情報の中から、自分の目的に応じた適切な情報を選択して、収集することができる。</p> <p>イ 収集・選択した情報を、自分の生活に的確に活用することができる。</p> <p>ウ 受け手の願い・状況等を踏まえ、メディアの特性を生かして、主体的に責任ある情報の発信ができる。</p>
環境	身近な自然について理解と愛着をもち、自然と共に生きていくこととする。法で環境の保全や望ましい環境を創る資質や能力を育てる。	<p>ア 身近な自然について理解するとともに、愛着をもつ。</p> <p>イ 環境問題と自分たちの生活とのかかわりについて認識を深め、自然との共存について考える。</p> <p>ウ 環境問題の解決や環境の保全・よりよい環境の創造について考え、自分にできる方法で実践しようとする。</p>	<p>ア 身近な自然に進んで親しみ、自然の大切さに気付く。</p> <p>イ 身近な環境問題を知り、それは自分たちの生活と深いかかわりがあることが分かる。</p> <p>ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造を目指した地域の人々の活動や機関の取り組みについて知り、自分にもできる方法で実践しようとする。</p>	<p>ア 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高め自然を大切にしようとする。</p> <p>イ 環境問題と自分たちの生活とのかかわりについて理解を深め、全地球的な視野に立ち、自然との共存について考える。</p> <p>ウ 環境問題の解決や環境の保全、よりよい環境の創造を目指した取り組みが抱える構造的な問題について認識を深めるとともに、自分の生き方を振り返り、主体的に実践しようとする。</p>
福祉	自分を含め、様々な人々がそれぞれに生き甲斐をもつて生きていくこと、そのために互いに助け合っていることを理解し、より一層充実した福祉社会の実現に貢献する資質や能力を育てる。	<p>ア 自分を含め、様々な人々がそれぞれ生き甲斐をもつて生きていくことを理解し、すべての人を尊重する。</p> <p>イ 福祉問題と自分たちの生活とのかかわりについて理解し、福祉に対する認識を深める。</p> <p>ウ 福祉問題の解決やみんなが生き生きとした生活を送ることができ、福祉社会の実現について考え、その実現に貢献しようとする。</p>	<p>ア 身近な高齢者、年少者、障害者などについて理解し、それぞれの人の存在の大切さに気づき、温かい気持ちで接する</p> <p>イ 様々な人々のおかれている社会的状況を知るとともに、身近なところ配慮や工夫があることが分かる。</p> <p>ウ 身近な福祉問題の解決の方法やみんなが幸せに暮らせる社会の実現について考え、そのために自分にもできる活動を実践しようとする。</p>	<p>ア 様々な人々がそれぞれに生き甲斐をもつて生きていくことや互いに助け合っていることを理解し、他者を尊重し、思いやりをもって接する。</p> <p>イ 日々の生活は人々の支えや助けによって成り立っていることや福祉社会の現状や問題点を知り、福祉に対する認識を深める。</p> <p>ウ みんなが生き生きと充実した生活を送ることができ、福祉社会とはどんなものかを考え、福祉問題の解決やより一層充実した福祉社会を実現するために自分にもできる活動を進んで実践しようとする。</p>

総合的な学習の時間の内容系列表 No.2

久世町立遷喬小学校

	目 標	内 容	3・4年	5・6年
健康	<p>生きていることのすばらしさや生命の尊さに気づき、自分や他人の生命を尊重する心をもち、心身共に健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 生きていることのすばらしさや生命の尊さに気づき、自他の生命を尊重する。</p> <p>イ 心身共に健康で安全な生活についての認識を深め、よりよい生活を営もうとする。</p>	<p>ア 自分の成長を振り返り返る活動を通して、生きていることのすばらしさや生命の大切さに気づき、すべての生命を大切にしようとする。</p> <p>イ 健康で安全な生活を送るために欠かせない基本的な生活習慣の大切さが分かり、自分の生活をよりよいものにしようとする。</p>	<p>ア 生命誕生のメカニズムを知り、自分の命が周りの人々とのかかわりの中で育まれてきた尊いものであることを実感し、すべての生命をいっしょくむ心をもつ。</p> <p>イ 病気やけがの予防、健康増進のメカニズムを理解し、自分の生活を見直して、よりよい生活環境を創造しようとする。</p>
進路	<p>労働の喜びや苦勞、意義について理解するとともに、自分の将来について考える資質や能力を育てる。</p>	<p>ア 労働の喜び・苦勞を知り、労働の意義について考える。</p> <p>イ いろいろな職業と自分たちの生活とのかかわりについて知り、それぞれの職業の大切さを理解する。</p> <p>ウ 今の自分を見つめ、自分の将来について考え、自己を高めていこうとする。</p>	<p>ア 身近で働く人々の喜びや苦勞を知り、働くことの大切さに気付く。</p> <p>イ 身近な人々の仕事を知り、その仕事は自分たちの生活を支えていることが分かる。</p> <p>ウ 自分自身に目を向け、自分のよさに気づき、よりよい未来に向かって意欲的に生活しようとする。</p>	<p>ア 地域の人々とともに労働することを通して、働く人の喜びや苦勞を実感し、労働の意義について考える。</p> <p>イ いろいろな職業と自分たちの生活とのかかわりを理解しそれぞれの職業の大切さが分かる。</p> <p>ウ 成長の足跡を振り返り、これからの自分の生き方について考え、なりたいたい自分に向かって、自己をより高めていこうとする。</p>
郷土	<p>自分たちが暮らす地域の歴史、伝統、生活習慣、産業などについて理解するとともに、愛着をもつ。</p> <p>イ 地域を支える人たちの働きや活動を知りその現状や問題点について理解する。</p> <p>ウ 地域の文化や生活等を守り、受け継ぐとともによりよい郷土を創り力育てる。</p>	<p>ア 地域の歴史、伝統、文化、生活習慣、産業などについて理解するとともに、愛着をもつ。</p> <p>イ 地域を支える人たちの働きや活動を知りその現状や問題点について理解する。</p> <p>ウ 地域の文化や生活等を守り、受け継ぐとともによりよい郷土を創り力育てる。</p>	<p>ア 地域の身近な文化や生活に関心をもち、そのよさに気付く。</p> <p>イ 地域を支える人々の活動に触れ、人々の思いや願いを知る。</p> <p>ウ 自分も地域社会の一員であることに気づき、地域の文化や生活を守るために自分のできることは何かを考えて実行しようとする。</p>	<p>イ 地域の歴史、伝統、文化、産業などの特色に気付く、郷土を愛する心をもつ。</p> <p>イ 地域を支える人々の働きや活動の様子を知り、地域社会の現状や問題点を理解する。</p> <p>ウ 地域社会の一員として、地域の文化や生活等を守るとともに、よりよい郷土を創っていくための方法を考え、実行しようとする。</p>

確認事項

- *健康のスキームの内容は、人間の生命を中核にしている。動植物などの生命尊重については、環境のスキームの内容のアにも含める。
- *進路のスキームの内容のウでいう自分の将来とは、職業を限定するのではなく、なりたいたい自分を指す。
- *人権に関わる問題は、特別にはスキームを設けていないが、すべてのスキームの基盤となるので大切にしなければならぬ。
- *情報のスキームの内容は、他のスキームのものとは性質が若干異なり、どの単元においても活動を行うときに触れることの多い内容である。

(3) 年間単元指導計画の作成

第3学年(85時間)*そのほか、英会話学習・コンピュータ学習を各10時間実施

月	単元名 (時数)	単元目標	内容系列表 との関連	単元の評価規準
4 5 6 7	久世町いいところ大発見(30)	地域の文化や地域を支える人々の活動を知り、地域社会の一員として地域の文化や生活を守るためにできることを実行していこうとする。	郷土	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①地域の身近な文化や生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。 ②調べたことをわかりやすく人に伝えようとする ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①自分も地域社会の一員であることに気づき、地域のために自分にできることは何かを考えて実行しようとする。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①調べたことをわかりやすくまとめることができる。 ②まとめたことを伝え方を工夫して発表することができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①地域を支える人々の活動にふれ、人々の思いや願いを知る。
9 10	体によい手作りおやつに挑戦しよう(15)	いろいろな食品の摂取過多が体に与える悪影響がわかり、健康でよりよい生活をおくっていくために、自分にできることを考え、実行しようとしていく。	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①「食」に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。 ②自分の食生活を振り返り、体によい食品の摂取に心がけようとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①いろいろなおやつや栄養の摂取と、体に与える影響について関連づけて考えることができる。 ②自分のめあてをはっきりともち、進んで調べることができる。 ③学習した内容と自分の食生活を比較し、体によいおやつの取り方を考えていくことができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①調べたことをわかりやすくまとめることができる。 ②学習したこと・わかったことの伝え方を工夫する。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな食べ物の栄養や体へ与える影響がわかる。 ②体にとってよい食生活がわかる。
11 12	手話を知ろう(10)	手話を知ること、聴覚障害者の生活やコミュニケーション方法に関心を持ち、自分にできることを考えていく。	福祉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①手話に関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①聴覚障害者が社会生活を営む上で、困難なことは何かを考える。 ②聴覚障害者が幸せに暮らせるための工夫や配慮を知り、自分にもできることを実践しようとする。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①手話で簡単なあいさつや自己紹介ができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①聴覚障害者が幸せに暮らせるために、身近なところに様々な配慮や工夫があることがわかる。
1	私たちのまわりのエネルギーについて考えよう(30)	自分たちが使っているエネルギー(電気エネルギー)がどのようにして作られ、どのように送ってこられているのかを知り、	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①エネルギーについて関心を持ち、意欲的に調べていこうとする。 ②身のまわりのエネルギーを大切にしていこうとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①エネルギーの現状や課題を知り、自分達はどの

2	エネルギー問題について考えていく。	ような生活をしていくべきか考えることができる ○ 技能・表現 ①エネルギーについて学んだことを、文章や新聞にまとめることができる。 ②エネルギーについて考えたことを、友だちに伝えることができる。
3		○ 知識・理解 ①発電方法の仕組み、各発電方法の燃料、エネルギー問題が抱える課題がわかる。

第4学年(85時間)*そのほか、英会話学習・コンピュータ学習を各10時間実施

月	単元名(時数)	単元目標	内容系列表との関連	単元の評価規準
4 5 6	ワールドカップ in 遷番(15)	ワールドカップ2002に出場する国を中心に世界の国々に興味を持ち、日本とは異なる言語や歴史を持つ国が世界にあることに気づく。	国際	○ 関心・意欲・態度 ①ワールドカップ2002に出場する国に関心をもち、協力して進んで調べようとする。 ②体育集会で選択した国をアピールするための準備を意欲的に取り組もうとする。 ○ 思考・判断 ①日本とは異なる言語や歴史を持つ国について調べ、それらの特徴について考える。 ○ 技能・表現 ①調べた資料を手がかりにして選択した国をアピールする方法を工夫することができる。 ○ 知識・理解 ①日本とは異なる言語や歴史を持つ国があることに気づく。
7 9	川の健康診断(10)	川にはたくさんの種類の生き物が住んでおり命を育んでいることを知り、生き物の集まる環境を守ることを通して、自然への見方や考え方を豊かにすることができる。	環境	○ 関心・意欲・態度 ①身近な自然環境について問題意識を持つようとする。 ②学校の近くに流れている川の観察に意欲的に取り組もうとする。 ○ 思考・判断 ①身の回りの生活環境の現状について知り、改善していく活動を考える。 ○ 技能・表現 ①川の観察をしてわかったことを工夫してまとめることができる。 ○ 知識・理解 ①川にはたくさんの種類の生き物が住み、命を育んでいることを理解する。
10	伝えたい！久世のええところいつでも(24)	ふるさとに残る「早川踊り」を調べたり、体験したりすることを通して、ふるさとのよさやそこに生きる人たちの思いに気づき、ふるさとに愛着をもち、地域の一員として自分にできることを考え実践することができるようにする。	郷土	○ 関心・意欲・態度 ①久世町のよさに関心をもち、進んで調べたり発表したりしようとする。 ②早川踊りの練習に意欲的に取り組もうとする。 ○ 思考・判断 ①「久世町のええところ」と自分との関わりを考え、地域の一員として自分のできることを見つける。 ②早川踊りと保存会の活動および保存会の人たちの思いを調べ、そこに見られる早川踊りの現状と課題について考える。 ○ 技能・表現 ①早川踊りを学区の人の伝える方法を工夫することができる。 ○ 知識・理解 ①自分たちの身近な地域の「ええところ」に気づく。 ②早川踊りと保存会の活動を知り、保存会の人たちの思いを理解する。

11	伝えたい!久世のええとこいつまでⅡ ～久世浪漫久世を救った早川代官～(26)	ふるさと久世町の基礎を築いた「早川代官」を調べて発表したり,調べたことを劇で表現したりすることを通して,早川代官が久世町に与えた影響に気づき,ふるさとに愛着をもち,地域の一員として自分にできることを考え実践することができる。	郷土	○ 関心・意欲・態度 ①久世町のよさに関心をもち,進んで調べたり発表したりしようとする。 ②早川代官の劇の練習や展示の準備に意欲的に取り組もうとする。 ○ 思考・判断 ①中間発表を見合うときの評価の観点を考えることができる。 ②中間発表後の活動を見通し,自分の課題を考えることができる。 ③久世町と自分との関わりを考え,地域の一員として自分のできることを見つける。 ○ 技能・表現 ①早川代官について調べたことを地域の人に工夫して伝えることができる。
12				
1				○ 知識・理解 ①早川代官が久世町に関わりの深い人物であることを理解する。
2	視覚障害入門～目の不自由な人と,ふれあおう～(10)	視覚障害をもつ人とのふれあいを通して,その人の存在の大切さに気づき,温かい気持ちで接することができるようにする。	福祉	○ 関心・意欲・態度 ①身近にある視覚障害者のための工夫を進んで調べようとする。 ②点字を意欲的に学ぼうとする。 ○ 思考・判断 ①身近にある視覚障害者のための工夫を調べ,そこに見られる現状と課題を考える。 ○ 技能・表現 ①視覚障害者と実際にふれあい,わかったことを工夫してまとめることができる。 ○ 知識・理解 ①身近にある視覚障害者のための工夫について理解する。
3				

第5学年(90時間)*そのほか,英会話学習・コンピュータ学習を各10時間実施

月	単元名(時数)	単元目標	内容系列表との関連	単元の評価規準
4				
5				
6	川の汚れを調べよう(7)	「琵琶湖の水の汚れ」を参考に,久世町を流れる身近な旭川の汚れ具合を調べる活動を通して,川を守るために私たちにできることを考え,問題意識を持って生活することができる。	環境	○ 関心・意欲・態度 ①旭川を意欲的に観察したり,昔の川の様子を人に聞いたりしようとする。 ②旭川の水と,身の回りの水の汚れ具合をパックテストを使って積極的に調べようとする。 ○ 思考・判断 ①旭川の汚れ具合を調べた結果から,大切な川をこれ以上汚さないために,私たちにできることを考えることができる。 ○ 技能・表現 ①自分が観察したり,人に聞いたりした旭川の様子をわかりやすく伝えることができる。 ○ 知識・理解 ①パックテストを使って,旭川の水と,水道水や雨水・下水などの汚れ具合を比較することによって,旭川の水が汚れてきていることがわかる。
7				
9	車いす体験をしよう(10)	正しい車いすの使い方や,介助の仕方を学習し,校内	福祉	○ 関心・意欲・態度 ①車いすの正しい使い方を意識して,進んで車いす体験を行おうとする。

10	(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・外を車いすで過ごす体験を通して、車いすの生活で困難なことに気づき、自分にできることを考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①車いす体験から、車いすで生活している方に自分たちができることを考えることができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①車いす体験から、自分が感じたことをわかりやすく発表することができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①車いすの正しい使い方と、介助の仕方がわかる。
11	<p>いっしょに生きる！ ～心のバリアフリーを目指して～ (55)</p>	<p>車いすスポーツをしている人との交流を通して、障害のある人々の大変さについて考えたり、生き甲斐を持って一生懸命生きていることを共感的に理解し、障害者との接し方について考えると共に、自分自身の生活の改善すべき事を見つけ、実践することができる。</p>	福祉 進路	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①障害のある人々の生活に関心をもち、車いす体験を行おうとする。 ③車いす体験をもとにして、車いすで生活している方への質問を考え、積極的に交流しようとする。 ③障害があっても生き甲斐をもって一生懸命生きている人について、進んで調べようとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①車いす体験をもとに自分の意見を持ち、障害者の生活面や生き方について考えることができる。 ②障害があっても生き甲斐を持って前向きに生活していることに気づき、自分の生活を振り返り、これから自分にできることを考えたり見つけたりすることができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①交流してくださった方に感謝し、自分の気持ちが相手に伝わるように手紙を書くことができる。 ②障害があってもがんばっている人について調べその結果をわかりやすく発表することができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①車いすの生活では、数多くの困難があることを学び、そのような環境の中で生活している人の苦労や大変さがわかる。 ②ハンディがあっても障害者はみんな生きがいをもって生活をしていることがわかる。 ③福祉とは何でも助けてあげればよいということではないことがわかる。
12				
1	<p>ニュース番組作りを学ぼう。(10)</p>	<p>ニュース番組作りに関心をもち、放送局の見学を通して、くらしに役立つ情報を早く正確に伝えるためのしくみや、番組作りのための工夫や努力について気づくことができるとともに、取材内容や役割分担を決め、自分たちでニュース番組を作ることができる。</p>	情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①ニュース番組はどのように作られているのか話し合い、知りたいことや、疑問に思ったことをまとめ、見学のめあてや質問を考えようとする。 ②グループの友達と協力し、工夫してニュース番組を作ろうとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①放送局の見学を通して、情報を早く正確に伝えるために、番組作りに携わる人々がおこなっている工夫や努力について考えることができる。 ②身の回りのどんな出来事がニュースになるのか考え、題材を決定することができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①放送局を見学して、わかったことや気づいたことをまとめ、感想を書くことができる。 ②わかりやすく伝えるための構成を考え、撮影やインタビューをすることができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①ニュース番組を作るためには、どのような仕事が必要なのかわかる。
2				
3	<p>私たちのくらしとエネルギー(8)</p>	<p>私たちのくらしを支えるエネルギーについての関心をもち、限りある資</p>	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①自分たちのくらしを支えているエネルギーについて関心をもち、資源を有効に利用しようとする。 ○ 思考・判断

	源の有効な利用の仕方や、将来のエネルギー問題について考え、自分の生活の中でできることを見つけ、実践することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の発電方法の長所や短所から、将来の発電方法について自分の考えを持つことができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①これからのエネルギー利用の仕方について考え自分にできることについてわかりやすくまとめることができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな発電の仕組みや、問題点についてわかる。
--	------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第6学年(90時間)*そのほか、英会話学習・コンピュータ学習を各10時間実施

月	単元名 (時数)	単元目標	内容系列表との関連	単元の評価規準
4				
5				
6	仕事体験 (35)	校区内にある職場で仕事を体験する活動を通して、社会の規範や礼儀、勤労の意味に気づき、それを元に今の自分の生き方や考え方を見つめ直し、よりよい生き方を考えることができる。	進路 郷土	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①自分から進んで職場を調べたり、仕事の体験を依頼したりしようとする。 ②自分から進んでボランティア指導員に訪ね、働こうとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①体験活動を通して、社会の規範や礼儀、勤労の意味、生きていく上で大切なことを学ぶことができる。 ②体験活動で学んだことを元に、自分の生き方や考え方を見つめ直し、よりよい生き方を考えることができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①体験に必要なことを聞いたり、聞いたことをワークシートに記録したりすることができる。 ②自分が体験したことや考えたことを自分の言葉でまとめたり、わかりやすく伝えたりすることができる。 ○ 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ①校区内にどのような職場があるか知り、その特徴を知ることができる。 ②それぞれの職場で、どのような仕事があるか知ることができる。
7				
9	共に生きる～地球市民として～ (55)	探究活動や誇りを持って生きている人の話を聞くことを通して、国際人として共に生きる意義や必要性に気づき、それを元に自分にできることを見つけ、行動できるようにする。	国際	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ①自分から進んでアジアの人々の生活や文化および出会った人の生き方について関心を持って調べようとする。 ○ 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ①聞き取りや出会いを通して、アジアの人々の生き方や誇りや日本に対する見方を学び、自分のアジアの人々に対する見方を考えることができる。 ②在日コリアンとの出会いから、共に生きる事を阻む壁をなくす努力や、それを乗り越えようとする生き方について共感的に考えることができる。 ③国際人として、生きていく上で大切な価値観を整理するとともに自分の生活の見直すところを考えることができる。 ○ 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ①ねらいに即して、大事なことをメモしながら聞くことができる。 ②様々な方法で調べたことや、考えたことを自分の言葉でまとめたり、わかりやすく伝えたりする
10				
11				
12				

1			ことができる。
2			○ 知識・理解 ①私たちの暮らしがアジアのいろいろな地域と繋がっていることを知ることができる。
3			②アジアの人たちの生活・文化・価値観を知ることを通して、人としての営みの共通性に気づくことができる。 ③在日コリアンが日本社会で生きる時、制度的壁と心の壁があることを知る。

(4) 単元指導計画のフォーマットとその作成要領

単元指導計画は、第Ⅱ章第5節に示されたフォーマット及びその作成要領に沿って作成することにした。

すなわち、①単元指導計画の対象学年及び担当者の決定→②単元名及び学習活動の決定→③単元設定に関わる「教師の願い」の決定→④単元設定に関わる「子どもの実態」の記述→⑤単元の目標の決定→⑥単元の評価規準の作成→⑦学習過程における単元の評価規準の具体化と評価資料の決定→⑧評価資料（略）→⑨評価基準の設定→⑩評価の3つの機能への対応計画の決定の順に沿って単元指導計画を作成することにした。

以下、この中から、本校なりに工夫した点や留意した点などを、実際の取り組みを踏まえて記することにする。

<②単元名及び学習活動の決定に関して>

その学年の子どもの実態や地域・学校の特性等を念頭に置きながら、どのような問題解決の活動（＝単元）をどのくらいの時間をかけて展開するかを概略を検討し、その際の支援のポイントについても検討した。

<③単元設定に関わる「教師の願い」の決定に関して>

なぜこの単元を設けたのか、単元を通して目指す内容やどんな生活のできる子どもを目指しているのかを書いた。その場合、内容系列表と照らして、何の項目のどんな内容をねらっているのかを明らかにした。

たとえば、第5学年の「いっしょに生きる！～心のバリアフリーを目指して～」では、“問題解決活動を通して、内容系列表の福祉のAや進路のウの内容を指導し、障害者理解だけでなく、これからの自分の生き方について考え、なりたい自分に向かって自己をより高めていこうとする子どもの育成を期待する”というように「教師の願い」を明らかにするようにした。

<④単元設定に関わる「子どもの実態」の記述に関して>

教師の願い（望ましい生活者像）から見たときの子どもの生活の実態を書いた。子どもの実態だからといって、「明るく素直で・・・」といった何にでもあてはまる実態ではなく、その単元の学習をすれば子どものどこがより一層育つことになるか、生活のどんな面が改められることになるかといった、その単元ならではのよさが反映されるように、具体的に子どもの実態を書くようにした。

例えば、“自分たちの住んでいる地域の施設や自然に関わる学習を行い、自分たちの住む地域を見つめ直すきっかけになったと思われるが、地域の一員として地域のよさに気づいたり、進んで地域の課題に取り組んでいこうとする意識はあまり見られない。”と具合に。

<⑤単元の目標の決定に関して>

その単元全体で営まれる活動とそこでの指導内容のポイント、そして期待される子どもの望ましい生活者像を、「～を通して、～がわかり（～に気付き）、～ができるようになる。」のように、1文にて単元全体を表現するよう工夫した。このとき、単に活動のみができたり、理解したりといった目標ではなく、自分の生活と関連づけて考えたり、生活に生かしたりすることができるという目標が重要であると考えた。

<⑥単元の評価規準の作成に関して>

評価規準は単元の目標の達成状況を絶対評価するめやすなので、具体的に子どもがどうなればよいのか、どこまで子どもができたならよいのかまで押さえて考えて、4つの評価の観点ごとに記述した。形容詞に頼って、抽象的な表現では評価できないので、できるだけ具体的な状態を表現するように工夫した。

<⑦学習過程における単元の評価規準の具体化と評価資料の決定に関して>

評価規準の具体化では、学習過程における単元の評価規準をそれぞれの学習活動でどんな観点について評価するのかを、その学習過程レベルにおける評価規準になるよう具体的に分かりやすく記述するように工夫した。評価資料については、評価が的確にでき、学習活動の中で無理がなく、なおかつ評価がより行いやすいものを使うようにした。またふり返りカードなどを作成する場合は、いつでも使えるものではなく、評価規準に沿った質問事項を設けるなど内容に工夫した。

<⑧評価基準の設定に関して>

子どもの様子から評価規準の実現状況を絶対評価できるよう、具体的な基準を設定し、あいまいな表現は避けるようにした。また評価基準は「～している。」というように事実に、行動的表現にした。例えば、「メモの中から自分のアジアの人に対する見方を考えるために必要な内容を選ぶことができる（規準）」の場合、B基準では「生活・文化の違いと共通点に関係ある内容を選んでいる。」A基準では「生活・文化の違いと共通点に関係ある内容を選んでいる。」と「その人の価値観に関する内容も選んでいる。」というように、教師はどんな内容を選んでいけばよいのか、またいくつぐらい必要かなどを具体的に決めておいた。

<⑩評価の3つの機能への対応計画の決定に関して>

単元全体を通して指導と評価の一体化のための計画や方法、子どもの自己学習力の向上や保護者等外部への説明責任に向けた評価をどこでどう工夫するかを予め構想しておくようにした。

(5) 授業と評価の実践に向けて

① 指導と評価の一体化の工夫

指導と評価の一体化に向けた評価活動は、授業の最初から最後まで絶えず営まれる活動である。そして、その評価活動は、教師が予め作成した単元指導計画に基づいて実際の学習指導を行う→そのもとで、子どもたちが学習する→観点別の評価規準の実現状況を学習過程及び成果に関する学習資料・情報を基に評価する→評価結果を基に、自己の作成した指導計画を予定通り継続するか、あるいは改善を加えるかを判断し、その後の指導に臨む→・・・といった、一連の活動の連続的なサイクルとして実践される。いわ

ゆる plan — do — see である。これは単元全体だけでなく、1 単位時間内においても、何回も営まれていることである。

上記のイメージを基に、各単元において、実際の指導と評価の一体化を行いながら、実践を行った。従来より、単元指導計画に基づく教師の支援と児童の学習活動の実際の様子は<実践の経過>などとして記述してきたが、その際の学習指導がはたして目指す教育的効果をあげているか、意図した子どもの学習実現状況がみられるかを評価し、その結果により、ある時は計画を継続し、ある時はその計画を修正しながら次の指導に臨むといった指導と評価の一体化の跡を記述することはほとんどなかった。今回は、単元指導計画に基づく教師の支援と児童の学習活動の実際の様子を、学習活動ごとに「①指導・学習の過程」として記述し、そこでの観点別の評価基準の達成状況を「②評価結果」として記述した。そして、それに基づいて次の指導をいかに工夫し展開したかを「③指導の改善と実施」に記述した。

このように、それぞれの評価結果を次の指導に生かす方法として、新たな取り組みや支援を行ったり、評価のよくない子どもには個別に支援したりすることで、確実な次のステップが踏め、成果を上げることができたと考えられる。

② 自己学習力の向上に向けた工夫

「生きる力」を育てるには、教師の支援を得ながら、子どもが問題解決力、すなわち自分で学習目標を決め→そのための計画を立て→友だちと協力しながら自己追究し、その問題解決の過程で絶えず自己の活動の過程及び成果を学習目標に照らして評価し→やがて解決に至るといって自己学習力（自己評価力）を身に付けることが不可欠である。しかし、これは容易に身に付けうることではない。そのためには、低学年より少しずつ身に付けていくよう、教師が手立てをとっていくことが大切である。

自己学習力の育成と向上を意図した評価を行う際、大きく二つのレベルを考えてみた。一つは教師主導のもとで子どもが学習活動及び評価活動を展開するというレベルであり、もう一つは、教師の支援のもとで、子どもが自己の目標なり評価基準を定め→その実現に向けた学習活動を展開し→その過程及び成果をふり返る（自己評価する）というレベルである。

第1レベルへの対応として、次のような工夫を行うことにした。

一つ目は、教師による問題解決授業の工夫である。暗記中心の授業を改め、子どもが自ら問題的場面から問題を設定し、計画を立て、追究し、ついには解決に至り、まとめを行うといった授業を行う。また、その中で子どもに自己評価を求めるような発問等にも工夫する。

二つ目は、授業中に実施する具体的な評価活動において、例えば次のような工夫を試みた。子どもの自己評価を求める場合、例えば、自分から進んで学習できたかに関して、はい・ふつう・いいえの回答を求める場合、どんなことができたら、「はい」なのかというそれぞれの項目に関する評価基準を予め説明してから、子どもの自己評価を求めるといった工夫を行う。

三つ目は、学習カード等への記述をさせる場合、授業に先立って予めその学習カード等を提示したり、その評価基準を説明したりするといった工夫を行う。

四つ目は、子どもの学習カード等や制作物にコメントしたり、アンダーラインを引いたりするような場合、教師の意図（評価規準と評価基準による絶対評価）が子どもに伝わるような工夫（例えば、学習カードに点数をつける、アンダーラインの色を変える、コメントした際に評価規準を示す等）を行う。

五つ目は、子どもが学習活動の過程や成果に関する資料やその評価結果を集めたポートフォリオを授業中に活用したり、ふり返りに使ったりして、次の学習に生かす授業展開の工夫を行う。

第2レベルへの対応として、次のような工夫を行うことにした。例えば1回目の発表時に、子ども一人一人に評価規準、さらには評価基準を作成させる。そして、それを基に、2回目の発表に向けた評価規準や評価基準を作成し、2回目の発表に向けた取り組みを行い、その跡を自己評価するといった工夫を行う。

③ 外部への説明責任に向けた工夫

ア 単元の総括的評価結果

単元の総括的評価をすることで、単元としての目標が十分達成できたのか、さらには指導要領に示されたねらいが達成できたのかについての評価もすることができる。また、本校の教育実践を検討する際の実質的な裏付けになると考えられる。そこで次のように単元の総括的評価を行うことにした。

実際の単元指導の過程において、評価の4観点別の「単元の評価規準」の実現状況を複数回以上評価することにした。この場合、いつ、どの場面における評価結果をその単元における総括的な評価結果として保存するかが問われることになる。そこで、単元に応じて柔軟に考え、ある観点に関しては指導と学習の過程で複数回以上にわたって行ったすべての評価結果の総和を出して総括的な評価結果をしてもよいし、ある観点に関してはある一部の特定された場面における評価結果で代表させてもよいことにした。

また、評価結果をたとえ文章記述するにしても、評価結果を得点化しておけば好都合と考えたので、評価規準の実現状況を判断するための評価基準を3段階に区分して表記し、それぞれ「A：十分満足できると判断されるもの」を3点（80%以上相当の達成）、「B：おおむね満足できると判断されるもの」を2点（60%～79%相当の達成）、「C：努力を要すると判断されるもの」を1点（59%以下相当の達成）として考えていくことにした。

評価結果は一覧にまとめて「個人評価結果表」を作成した。ここには、学習活動の展開に沿って評価される各4観点別の評価規準の学習実現状況を、個人ごとにA、B、Cの記号によって記録した。縦列に氏名欄をとり、横欄には学習活動の展開に対応しながら評価される評価規準を記した。そして、縦列と横列の交差するセルに子どもごとの評価基準に基づく評価結果を記入した。

この「個人評価結果表」を用いて、単元終了時におけるクラスごともしくは学年ごとの4観点別の総括的な評価結果表を作成し、単元の総括的評価を行うことにした。

イ 単元における個人内評価結果

上記で作成した「個人評価結果表」を基にして、子どもごとに学習活動の展開に沿っ

て評価される4観点の評価規準の学習実現状況をみることにした。具体的には、「観点間経時的評価」（4観点相互の発達特質を時間を追いながら評価する）を見れば、その子どもの発達の強みやよさや課題が見えてくるし、「観点内経時的評価」（各4観点ごとの発達の状態を時間を追いながら評価する）を見れば、それぞれの観点における子どもの伸びや進歩の状況が見えてくると考えた。これらの評価結果を、適宜指導の改善に生かしたり、子どもや保護者に返したり、子どもの自己学習力の向上に役立てたりすることができると思った。